

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電気・電子工学 I	
科目基礎情報						
科目番号	0078	科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	商船学科	対象学年	2			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	精選電気基礎 新訂版 日高邦彦他 実教出版					
担当教員	保前 友高					
到達目標						
1. 電気・電子工学に関する基礎的な語の意味を説明できる。 2. オームの法則を用いて計算ができる。 3. 直列・並列接続の合成抵抗を求められる。 4. ブリッジ回路を説明できる。 5. キルヒホッフの法則を用いて計算ができる。 6. 電力、電力量について説明できる。 7. クーロンの法則、透磁率について説明でき、磁極に作用する力を求められる。 8. 電流が作る磁界の大きさや向きを求められる。 9. 電磁力の大きさや向きを求められる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	明確に説明できる。	説明できる。	説明できない。			
評価項目2	ただちに解を求めることができる。	解を求めることができる。多少時間がかかってもよい。	解を求めることができない。			
評価項目3	ただちに解を求めることができる。	解を求めることができる。多少時間がかかってもよい。	解を求めることができない。			
評価項目4	明確に説明できる。	説明できる。	説明できない。			
評価項目5	ただちに解を求めることができる。	解を求めることができる。多少時間がかかってもよい。	解を求めることができない。			
評価項目6	明確に説明できる。	説明できる。	説明できない。			
評価項目7	明確に説明でき、ただちに解を求めることができる。	説明でき、解を求めることができる。多少時間がかかってもよい。	説明できず、解を求めることができない。			
評価項目8	ただちに解を求めることができる。	解を求めることができる。多少時間がかかってもよい。	解を求めることができない。			
評価項目9	ただちに解を求めることができる。	解を求めることができる。多少時間がかかってもよい。	解を求めることができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	教員単独の講義形式で行う。					
授業の進め方・方法	授業中は、ホワイトボードに板書した内容のノートをとることが求められる。 毎回の授業で1枚の課題プリントを配布する。プリントには、各回の授業の目標が明示されており、問題は、目標に対応した授業で扱う内容の問題である。毎回、次回の授業の前日までに解答を提出することが求められる。 次回の授業の始めに、復習を兼ね、前回の課題の答え合わせを行う。					
注意点	船舶職員法養成施設必要履修科目（航海・機関） 評価が60点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者には、その評価を60点とする。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	・シラバス説明、ガイダンス ・自由電子、電流、電気回路、直流と交流について	・評価の方法等を理解する。 ・これらの語の意味を理解し説明できる。（何も見ずに課題の問題を解ける。）		
		2週	・電位差、電圧、起電力について ・オームの法則について	・これらの語の意味を理解し説明できる。（何も見ずに課題の問題を解ける。） ・オームの法則を用いて計算ができる。（何も見ずに課題の問題を解ける。）		
		3週	・直列接続の合成抵抗について	・抵抗の直列接続時の合成抵抗を求めることができる。（何も見ずに課題の問題を解ける。）		
		4週	・並列接続の合成抵抗について ・直並列接続の合成抵抗について	・抵抗の並列接続、および直並列接続時の合成抵抗を求めることができる。（何も見ずに課題の問題を解ける。）		
		5週	・ブリッジ回路について	・ブリッジ回路、ホイートストンブリッジについて理解する。（何も見ずに課題の問題を解ける。）		
		6週	・キルヒホッフの法則について	・キルヒホッフの法則を用いた計算ができる。（何も見ずに課題の問題を解ける。）		
		7週	・抵抗率、導電率について	・抵抗率、導電率について理解し説明できる。（何も見ずに課題の問題を解ける。）		
		8週	・中間試験	・中間試験		
	2ndQ	9週	・中間試験答案返却・復習 ・電力・電力量について	・中間試験で解けなかった問題を解ける。 ・電力・電力量について理解する。（何も見ずに課題の問題を解ける。）		
		10週	・磁気について ・磁極に作用する力について	・磁気に関する語の意味を説明できる。（何も見ずに課題の問題を解ける。） ・クーロンの法則を用いて磁極に作用する力を求められる。（何も見ずに課題の問題を解ける。）		

		11週	<ul style="list-style-type: none"> 磁界の大きさについて 透磁率について 	<ul style="list-style-type: none"> 点磁極による磁界の大きさを求められ、作用する力の大きさを求められる。(何も見ずに課題の問題を解ける。) 透磁率、比透磁率について理解し、比透磁率が異なる場合に磁極に作用する力を求められる。(何も見ずに課題の問題を解ける。)
		12週	<ul style="list-style-type: none"> 磁気誘導、磁気遮蔽について 	<ul style="list-style-type: none"> 磁気誘導、磁気遮蔽について説明できる。(何も見ずに課題の問題を解ける。)
		13週	<ul style="list-style-type: none"> 磁力線、磁束、磁束密度について アンペアの右ねじの法則について 直線導体を流れる電流が作る磁界の大きさについて 	<ul style="list-style-type: none"> これらの語の意味を説明できる。(何も見ずに課題の問題を解ける。) アンペアの右ねじの法則を説明でき、直線導体を流れる電流が作る磁界の大きさを求めることができる。(何も見ずに課題の問題を解ける。)
		14週	<ul style="list-style-type: none"> 円形コイルを流れる電流による磁界の大きさについて 電磁力について 	<ul style="list-style-type: none"> 円形コイルを流れる電流による磁界の大きさを求めることができる。(何も見ずに課題の問題を解ける。) 電磁力の向き・大きさを求めることができる。(何も見ずに課題の問題を解ける。)
		15週	<ul style="list-style-type: none"> 期末試験 	<ul style="list-style-type: none"> 期末試験
		16週	<ul style="list-style-type: none"> 期末試験答案返却、解説、授業アンケート等 	<ul style="list-style-type: none"> 期末試験で解けなかった問題を解ける。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
			試験	課題	合計
総合評価割合			70	30	100
基礎的能力			0	0	0
専門的能力			70	30	100